

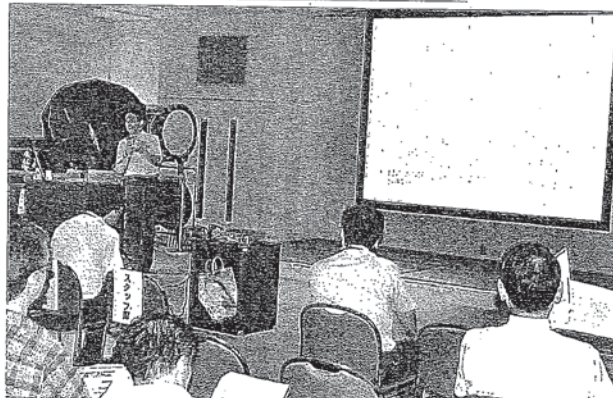
ダム完成後の地域学ぶ

天竜区 佐久間で住民ら勉強会

浜松市と国土交通省と題して講演した。ダム建設当時、旧佐久間町の人口は現在の約7倍の2万6671人に達したと紹介。完成した1956年の11月には約3万3千人の観光客が訪れ、にぎわいを創出したと説明した。天竜川を生かすためのさまざまな可能性を地元視点で考える必要性も主張し、「上流域・中下流域の地域や人々といかに連携するか

一橋大学院社会学研究科の町村敬志教授が「佐久間ダム完成60年後の佐久間を思う」

が重要」と強調した。会場ではダム建設当人はダム堤体内も見学した。



佐久間ダム完成後の地域社会について講演する町村教授(左)＝浜松市天竜区佐久間町の佐久間歴史と民話の郷会館

この記事・写真は静岡新聞社の許諾を得て掲載しています。

地域NEWS

天竜川勉強会を開催

浜松市と
浜松河川国道

国土交通省浜松河川国道事務所と浜松市は、浜松市天竜区の佐久間歴史と民話の郷会館で、佐久

間ダム完成後の地域社会について学ぶ「天竜川勉強会」を開催した。

勉強会では、一橋大学社会学研究科の町村敬志



教授「写真」が「佐久間ダム完成60年後の佐久間を思う」と題した講演を行った。巨大ダム建設がもたらした「ダムブーム」とこれに伴う地域開発の影響について検証した。その他、佐久間ダム堤体内の見学会やダム建設当時の写真展示会なども行った。

この記事・写真は建通新聞社の許諾を得て掲載しています。